

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297201002		
法人名	医療法人社団光久会		
事業所名	グループホームふなぎら		
所在地	静岡県浜松市天竜区船明436		
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援、体力維持向上を目標に掲げ活動しております。入居者様ごとに様々な人生を歩まれてきたと思います。ひとり一人の生きがいを見つけて支援し、自宅と比べて窮屈な入居生活を少しでもご本人らしく過ごしていただければと、考えております。コロナで自由に外出することは難しいですが散歩や畑仕事を積極的に実施し、地域の方との関わりが増えるようアフターコロナを見据えて、日々の活動を頑張っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297201002-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年11月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人本部は、浜松市内に複数事業所を運営する医療法人として市担当者と常に協力関係があり、その情報を各事業所と連携している。毎月法人事業所管理職の連絡会を行い、情報共有・意見交換を図っている。管理者は、事業所理念の「自立支援の実践」に向け、都度職員と話し合い、理念の意識と実践の確認をしている。自治会との情報交換や、散歩時や事業所の「船明ファーム」の畑仕事の際の挨拶、SNSを活用した情報発信など、コロナ禍であっても事業所を理解してもらえるように努めている。職員は、入居時に家族が記入する「暮らしのシート」の情報を基に入居後の様子を観察して、食事の調理・配膳・下膳、散歩や畑仕事の外出、法人診療所への通院など、利用者個々の希望と状態に合わせた支援を心掛けている。年2回の面談やWEBを活用したオンライン職員研修を行い、職員のスキルアップを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は「自立支援の実施」です。個々の職員の意識、理解度に差はありますが、現在はその意識統一をしています。	法人は、毎月、法人事業所管理職の連絡会を行い、法人内事業所の情報共有・意見交換を図っている。管理者は、事業所理念の「自立支援の実践」に向け、都度職員と話し合い、理念の意識と実践の確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板を届けたり、散歩時の挨拶をする事で日常的に交流しています。	地域とのつながりを大切に、自治会との情報交換や、近隣の散歩時や事業所の「船明ファーム」の畑仕事での挨拶など、日頃からの交流を実践している。コロナ禍であっても、事業所を理解してもらうように、SNSを活用した情報発信を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体が認知症の人の理解や支援で日々模索している状態なので、地域には発信できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議自体が書面開催になっています。まずは通常の面会が出来るような状況になり、ご家族に事業所の活動を見ていただきたいと思えます。	コロナ感染予防対策のため、運営推進会議委員による開催ができていない。法人内委員によるオンライン会議にて運営状況を話し合い、職員との情報共有を図っている。今後は、市・地域包括支援センター担当者や家族や地域の住民参加による開催(書面開催を含む)を行う予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より浜松市介護保険課とは質問や相談を常に早めに行っている。協力関係は築けていると思います。	法人本部は、浜松市内に複数事業所を運営し、市担当者とは逐次連絡を取っている。市の担当課への質問や相談をして協力関係を築き、その情報を各事業所に知らせる仕組みがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の方に身体拘束しても状況が悪くなるだけなのでしておりません。玄関は日中施錠しておりません。	法人本部は、指針・マニュアルを整え、管理者出席による身体拘束適正化委員会を毎月行い、法人全体で、各事業所での対応を検討している。職員は、委員会での情報を共有するとともに、基本研修とケース検討の研修にて、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の事業所をwebでつなぎ、オンタイムで勉強を開催している。また、参加できない職員のためにその様子を録画しYoutubeで視聴できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の事業所をwebでつなぎ、オンタイムで勉強を開催している。また、参加できない職員のためにその様子を録画しYoutubeで視聴できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者、施設ケアマネ2名で対応し、不安や疑問に丁寧に回答するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、利用者、外部見識者とじっくりと意見できるような運営推進会議を集まってできませんが、文書での形を取らせて頂いております。	コロナ禍により家族の面会は窓越しかりモートに制限されているため、日頃の利用者の様子はSNSを活用して情報を発信している。管理者からの都度電話連絡や担当職員によるお便り送付とともに、1年分の写真を年末にアルバムにして届け、家族からの意見の吸い上げに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案はとて多く助かっています。特別な機会を設けなくても業務内で意見、提案を聞ける環境があるので継続したいと思います。	職員からの意見や提案は、申し送りノートで情報を共有するとともに、管理者は都度意見の聴き取りを心掛けている。法人理事・管理者は、人事考課シートを活用した年2回の面談や、WEBを活用した各種研修を行い、職員のスキルアップにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入しています。また、月に一度社会保険労務士と面談してよりよい職場環境を模索しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月2回内部研修を行っている。外部研修については希望者を募り、積極的に参加できるようにしています。シフト調整や資格取得の資金援助も行っていきます。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナの関係で交流、見学はできておりません。アフターコロナを見据えて見学したい法人、会社のピックアップをしています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とにかく安心してもらおうという気持ちで接してもらっています。タイムスケジュールにそった業務がないので入居者様とのコミュニケーションの時間は取れていると思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して頂いた後、入居者様の解らない事が多々あるので、積極的にご家族様から情報収集しております。その際、ご家族様との関係性が構築されてくると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やれることは最大限にやっているつもりですが、ご本人に適切な支援の見極めがどれくらいできているのか、今後の検討材料だと考えております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするどころか、入居者様が先生、職員が生徒と言う場面に頻繁に遭遇します。入居者様から色々な事を教えていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ごとに様々な事情があるので均一にはなりません。入居者様、ご家族と共に悩み、考えるスタンスは持っていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも安全を確保し、管理者の判断でドライブと称して入居者様の自宅に行ったりしている。	事業所周辺は、区画整理された新興住宅地で車も少なく、日頃から散歩等の外出時には近所の人や住民との交流ができる。窓越し・リモート面会、散歩や畑仕事、馴染みの床屋さんへのドライブなど、利用者個別の対応を心掛け、それぞれの関係継続を支援している。	

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が声を掛け合ったり、一人ひとりが孤立しないよう職員が支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人関連施設に移動した入居者様がいますが、移動先の施設に行き顔を見たり、ご家族に様子を報告しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接で入居者様の思い、希望、意向を聞き、ご家族にも話を伺っております。ご本人の表情を見て安心できる時間の過ごし方や好きなこと、得意なこと等を検討し、プランに活かしています。	管理者は、家族が記入する「暮らしのシート」にて入居前の暮らしぶりや本人や家族に思いや意向を聴いている。職員は、担当職員を中心に、情報を基に入居後の様子を観察して、利用者や家族の意向の把握に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問にて、入居者様、ご家族に伺ったり、「暮らしのシート」というフォーマットをご家族に記入して頂いております。暮らしのシートの追記確認もしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎ時に入居者様の変化と対応を管理者、ケアマネが参加し話し合い、ケース及びノートに記載しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員の情報やご本人、ご家族に提示、承諾を得ています。また訪問看護師や主治医の見解も参考にしてプランに活かしています。	担当する職員は、毎日の申し送りや業務日誌から利用者の日頃の様子を把握している。介護計画の更新時には、「介護計画モニタリング表」を基に、訪問看護師や医師の意見を参考にして、管理者とケアマネジャー、担当職員が話し合い、介護計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づきや工夫をケース記録として入力し、職員間で情報共有して実践や介護計画の見直しができてきていると思います。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談して、面会、ビデオ通話、外出を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活動には制限がありますが、施設周辺道路の草取りをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の診療所をかかりつけ医としています。通院援助し日頃の様子を職員が伝えます。ご家族が希望される他受診についてはご家族に協力頂いております。	法人診療所を協力医として、ドライブやリハビリを兼ねた定期的な通院と週1回の看護師訪問により、利用者の体調管理を図っている。医療法人運営の事業所のため、職員は常に適切な指示を受けることができる。他のかかりつけ医への通院や他科受診は、家族の協力により対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に入ってもらっております。職員からの入居者様の相談を受けていただき、様々なアドバイスや受診の必要性の有無の助言を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供しています。治療が円滑に行われるよう管理者、ケアマネが協力してご家族と病院関係者との調整を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でできる医療的なケア、終末期の対応について説明し、ご家族の意向を確認しています。主治医、訪問看護師との連携は取れる状態にあります。初めての看取りはとても自然で、職員との話し合いも行いました。	事業所における重度化・終末期の対応について、入居時に説明し、利用者・家族の意向を確認している。重度化した際には、再度確認し、家族の意向に沿った支援をしている。法人本部は、定期的な職員研修を行い、医療との連携体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の研修は行いましたが、定期的にはできていません。現状、昼夜問わず管理者に連絡し、指示を仰いでおります。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の各地の水害を見ていると、避難方法の全面的見直しが必要だと思います。地域との協力体制もまだできていません。	事業所の周辺は、ソーラーシステムを整備している地域である上、事業所では電気自動車を所持して停電対策を備えている。年に2回、火災を想定した防災訓練を行っている。職員の連絡網を整え、備蓄品はリストを作成して管理している。	令和6年4月までに、BCP計画作成が求められていますので、BCP計画に基づく事業所での対応(地域住民とのかわりを含む。)を検証できる災害対策訓練の実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアを軸に職員教育をしています。職員それぞれ理解や実践にはばらつきが見られますが、zoomを使った研修を積極的に行っております。	法人は、パーソンセンタードケアについての研修に力を入れており、毎月、定期的なオンライン職員研修を実施している。SNS等への写真掲載については、入居時に利用者・家族に確認して、配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話をし、色々なニーズを聞き、ご本人に決めていただけるよう努めております。聞いただけで実現されないという事にならないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はある程度決まっていますが、それ以外利用者様のペースで過ごして頂けるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、入居者様に洋服を選んでいただきたり、一緒に選んだりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日の朝食、水曜日、金曜日の昼食を入居者様と一緒に買い物に行き調理しています。入居者様が食べたいものを聞き、調理するよう努めております。	職員は、月曜日の朝食、水・金曜日の昼食作りや手作りおやつなど、利用者の好みや能力に配慮しながら共に調理することを実践している。買い物や畑での収穫、ミニ遠足でのお弁当作りなど、食事を楽しむ環境作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食後チェックしております。散歩や活動後は必ず水分補給しています。法人内の管理栄養士に食携帯、カロリーの相談をしております。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科に入って頂き、指導して頂いており職員の意識も高まり、入居者様一人ひとりのケアを行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを把握してトイレ誘導しております。現在布パンツ使用者4名と少なく、一人でも多くの方に布パンツで過ごしていただけるよう模索しております。	排泄表の記録や利用者の様子から、個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を心掛けている。現在布パンツ使用者は少なくなってきたが、見守りや声掛けに留意し、トイレ利用が継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯に麦を入れております。なるべく食物繊維が摂取できるよう工夫しておりますが、3分の1の入居者様が下剤を使用しているのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴して頂いていますが、入居者様から希望があれば入浴して頂いております。拒否が強い入居者様には時間をずらして声かけしたりして強制的に入浴させる事はありません。楽しく、ゆったりを心掛けております。	週に2回、ゆったり入浴できるように時間で区切ることをせず、利用者の希望に合わせて支援している。利用者も職員とゆったり話ができることを楽しみにしている。入浴時の様子は、連絡ノートで情報共有を図っている。拒否の強い人には、家族相談しながら、声掛け等を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンを使用し、夜間見守りしていません。日中も一人ひとりのペースで過ごさせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携し、服薬ロボットを導入しております。毎日、内服チェックもしており、状態の確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、やれること、やりたい事を提供、支援しております。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩は行っております。入居者様の様子を見ながら管理者の判断でドライブも行っております。	事業所の周辺は交通量が少ないので、天気の良い日には散歩や畑に出掛けている。事業所中庭のデッキテラスも広く椅子が置かれ、日光浴ができる。通院時を利用したドライブなど、利用者個々の状態に合わせた支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で一緒に買い物に行くことはできませんが、ご本人の欲しいものがあれば職員が代わりに買い物に言っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話して頂いております。家族、親族からの電話や手紙も届き、返事を書いている入居者様もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな場所でくつろげるよう椅子を置いてあります。ウッドデッキや玄関に置いてあるベンチで過ごされている入居者様が見られます。	リビング・食堂、中庭のウッドデッキには、あちこち椅子が置かれ、利用者は好きなところでくつろぐことができます。季節作品を掲示して、BGMやアロマを取り入れ、穏やかな環境作りを心掛けている。空気清浄機を整え、定期的な消毒・換気により、清潔な居住空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい入居者様はご自分の居室で過ごしております。2ユニット自由に行き来できるので思い思い過ごしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き、季節ごとに布団、衣類の交換をしております。家族の写真、手紙などを飾り、いつでも見られるようにしております。	職員は、利用者と共に居室の清掃・定期的な消毒及び換気に留意している。家族の写真や、備品のチェストは移動可能。担当職員は家族の協力を得ながら布団の入替えや衣替えを行い、季節に合わせた暮らし方を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状況を見て、張り紙を貼りご自分の部屋を認識して頂いたり、トイレが何処にあるのかわかるようにしております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297201002		
法人名	医療法人社団光久会		
事業所名	グループホームふなぎら		
所在地	静岡県浜松市天竜区船明436		
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297201002-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援、体力維持向上を目標に掲げ活動しております。入居者様ごとに様々な人生を歩まれてきたと思います。ひとり一人の生きがいを見つけて支援し、自宅と比べて窮屈な入居生活を少しでもご本人らしく過ごしていただければと、考えております。コロナで自由に外出することは難しいですが散歩や畑仕事を積極的に実施し、地域の方との関わりが増えるようアフターコロナを見据えて、日々の活動を頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は「自立支援の実施」です。個々の職員の意識、理解度に差はありますが、現在はその意識統一をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板を届けたり、散歩時の挨拶をする事で日常的に交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自身が認知症の人の理解や支援で日々模索している状態なので、地域には発信できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議自体が書面開催になっています。まずは通常の面会が出来るような状況になり、ご家族に事業所の活動を見ていただきたいと思います。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より浜松市介護保険課とは質問や相談を常に早めに行っている。協力関係は築けていると思います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の方に身体拘束しても状況が悪くなるだけなのでしておりません。玄関は日中施錠しておりません。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の事業所をwebでつなぎ、オンタイムで勉強を開催している。また、参加できない職員のためにその様子を録画しYoutubeで視聴できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の事業所をwebでつなぎ、オンタイムで勉強を開催している。また、参加できない職員のためにその様子を録画しYoutubeで視聴できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者、施設ケアマネ2名で対応し、不安や疑問に丁寧に回答するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、利用者、外部見識者とじっくりと意見できるような運営推進会議を集まってできていませんが、文書での形を取らせて頂いております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案はとて多く助かっています。特別な機会を設けなくても業務内で意見、提案を聞ける環境があるので継続したいと思います。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入しています。また、月に一度社会保険労務士と面談してよりよい職場環境を模索しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月2回内部研修を行っている。外部研修については希望者を募り、積極的にシフト調整や資格取得の資金援助も行っていきます。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナの関係で交流、見学はできておりません。アフターコロナを見据えて見学したい法人、会社のピックアップをしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とにかく安心してもらおうという気持ちで接してもらっています。タイムスケジュールにそった業務がないので入居者様とのコミュニケーションの時間は取れていると思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して頂いた後、入居者様の解らない事が多々あるので、積極的にご家族様から情報収集しております。その際、ご家族様との関係性が構築されてくると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やれることは最大限にやっているつもりですが、ご本人に適切な支援の見極めがどれくらいできているのか、今後の検討材料だと考えております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするどころか、入居者様が先生、職員が生徒と言う場面に頻りに遭遇します。入居者様から色々な事を教えていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ごとに様々な事情があるので均一にはなりません。入居者様、ご家族と共に悩み、考えるスタンスは持っているといます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも安全を確保し、管理者の判断でドライブと称して入居者様の自宅に行ったりしている。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が声を掛け合ったり、一人ひとりが孤立しないよう職員が支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人関連施設に移動した入居者様がいますが、移動先の施設に行き顔を見たり、ご家族の様子を報告しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接で入居者様の思い、希望、意向を聞き、ご家族にも話を伺っております。ご本人の表情を見て安心できる時間なほど過ごし方や好きなこと、得意なこと等を検討し、プランに活かしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問にて、入居者様、ご家族に伺ったり、「暮らしのシート」というフォーマットをご家族に記入して頂いております。暮らしのシートの追記確認もしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎ時に入居者様の変化と対応を管理者、ケアマネが参加し話し合い、ケース及びノートに記載しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員の情報やご本人、ご家族に提示、承諾を得ています。また訪問看護師や主治医の見解も参考にしてプランに活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づきや工夫をケース記録として入力し、職員間で情報共有して実践や介護計画の見直しができていると思います。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談して、面会、ビデオ通話、外出を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活動には制限がありますが、施設周辺道路の草取りをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の診療所をかかりつけ医としています。通院援助し日頃の様子を職員が伝えます。ご家族が希望される他受診についてはご家族に協力頂いております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に入ってもらっております。職員からの入居者様の相談を受けていただき、様々なアドバイスや受診の必要性の有無の助言を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供しています。治療が円滑に行われるよう管理者、ケアマネが協力してご家族と病院関係者との調整を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でできる医療的なケア、終末期の対応について説明し、ご家族の意向を確認しています。主治医、訪問看護師との連携は取れる状態にあります。初めての看取りはとて自然で、職員との話し合いも行いました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の研修は行いましたが、定期的にはできていません。現状、昼夜問わず管理者に連絡し、指示を仰いでおります。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の各地の水害を見ていると、避難方法の全ね摘見直しが必要だと思います。地域との協力体制もまだできていません。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアを軸に職員教育をしています。職員それぞれ理解や実践にはばらつきが見られますが、zoomを使った研修を積極的に行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話を氏、色々なニーズを聞き、ご本人に決めていただけるよう努めております。聞いただけで実現されないという事にならないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はある程度決まっていますが、それ以外利用者様のペースで過ごして頂けるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、入居者様に洋服を選んでいただいたり、一緒に選んだりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日の朝食、水曜日、金曜日の昼食を入居者様と一緒に買い物に行き調理しています。入居者様が食べたいものを聞き、調理するよう努めております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後チェックしております。散歩や活動後は必ず水分補給しています。法人内の管理栄養士に食携帯、カロリーの相談をしております。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科に入って頂き、指導して頂いており職員の意識も高まり、入居者様一人ひとりのケアを行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを把握してトイレ誘導しております。現在布パンツ使用者4名と少なく、一人でも多くの方に布パンツで過ごしていただけるよう模索しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯に麦を入れております。なるべく食物繊維が摂取できるよう工夫しておりますが、3分の1の入居者様が下剤を使用しているのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴して頂いていますが、入居者様から希望があれば入って頂いております。拒否が都良い入居者様には時間をずらして声かけしたりして強制的に入浴させる事はありません。楽しく、ゆったりを心掛けております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンを使用し、夜間見守りしています。日中も一人ひとりのペースで過ごさせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携し、服薬ロボットを導入しております。毎日、内服チェックもしており、状態の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、やれること、やりたい事を提供、支援しております。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩は行っております。入居者様の様子を見ながら管理者の判断でドライブも行って降ります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で一緒に買い物に行くことはできませんが、ご本人の欲しいものがあれば職員が代わりに買い物にしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話して頂いております。家族、親族からの電話や手紙も届き、返事を書いている入居者様もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな場所でくつろげるよう椅子を置いてあります。ウッドデッキや玄関に置いてあるベンチで過ごされている入居者様が見られます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい入居者様はご自分の居室で過ごされております。2ユニット自由に行き来できるので思い思い過ごされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き、季節ごとに布団、衣類の交換をしております。家族の写真、手紙などを飾り、いつでも見られるようにしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	美優居者様の状況を見て、張り紙を貼りご自分の部屋を認識して頂いたり、トイレが何処にあるのかわかるようにしております。		